

【研究課題名】 715 鎮静下人工呼吸期間が高次機能、術後回復に与える影響

【実施責任者】 集中治療部 准教授 井上 聡己

【実施分担者】 集中治療部 助教 野村 泰充
麻酔科学教室 助教 西和田 忠
集中治療部 助教 恵川 淳二
中央手術部 学内講師 田中 優
麻酔科学教室 教授 川口 昌彦

【研究の意義】

長期鎮静が高次機能に与える影響を調査しその程度を把握し、また鎮静時間により高次機能障害の頻度程度に差があるか検討することは意義が高い

【研究の目的】

頭頸部腫瘍のマイクロサージャリー術後の鎮静時間が高次機能に与える影響を調査することである

【研究の方法】

対象は 60 歳以上で頭頸部腫瘍のマイクロサージャリーを必要とする耳鼻咽喉科および口腔外科の患者。既に認知障害のある患者は除外する。対象患者へ研究の主旨を説明し同意を得た後手術前 1 週間までに高次機能検査を行う。検査には身体的苦痛、侵襲を含むものは含まれない。術後管理は各科のプロトコルに従う。術後 1,3 週、3 カ月に高次機能検査を行う。また、術後回復の質をアンケートにより調査し、合わせて術後合併症についても調査する。

高次機能検査としては以下のものを行う。

- 1.MMSE(mini mental state examination) : 見当識や記憶、注意、言語あるいは文章指示に従い、模写などの認知機能を評価する検査方法。
- 2.Trail Making Test (TMT): TMT とは数字を 1 から 25 まで順に結ぶ (Part A)、数字とひらがなを「1→あ→2い・・・」のように交互に結ぶ (Part B) という二つの課題からなる。
- 3.Digit Span: 最も簡単な記銘力テストで、数字を何桁まで記憶復唱できるかを見るもの。
- 4.Grooved Pegboard : 視覚運動、精神運動機能を診るもの。

【研究機関名】 奈良県立医科大学 麻酔科学教室

【個人情報の扱い】

連結可能匿名化とし個人情報への配慮をしている。具体的にはデータのダウンロードの際に氏名情報などは取り出さずID化を行っている。

【本研究に関する問い合わせ先】

研究責任者：麻酔科学教室 井上 聡己

〒634-8522

奈良県橿原市四条町 842

TEL 0744-22-3051